

随想



不動産鑑定士という生き方

公益社団法人日本不動産鑑定士協会連合会会長

よし むら まさ ゆき
吉 村 真 行

私は、大学・大学院では建築学を専攻したが、いつしか街づくりや都市再開発の世界を知り、都市や不動産の価値をどのように創造し、高めていくのかということに興味を持つようになった。

社会に出て信託銀行の一員として都市再開発等に携わるとともに、不動産鑑定士の資格を取り、不動産鑑定士のノウハウを基礎に置き、不動産の価値判断・価値創造に関わる会社を起業して早20年、図らずも今年6月に日本不動産鑑定士協会連合会の会長を拝命した。

不動産鑑定士という存在は、まだまだ国民に知られていないのではないかと思う。私が不動産鑑定士という資格について知ったのも、大学の同期が信託銀行に就職し、大学受験以来久々に1,500時間を超える集中的な受験勉強をしたという話を偶然耳にしたことがきっかけであった。その後、不動産鑑定士が難関国家資格であることを知ったが、私の志す道には不動産鑑定士になることが不可欠であると直感し、職業を選択したのが30年余り前のことである。「プロフェッショナルとして社会の役に立ちたい」という幼少期から漠然と持っていた志向が、不動産鑑定士という存在との出会いにより、生き方として定まった瞬間であったかもしれない。

昔から変わっていないが、「いつも全力投球、妥協はしない、強い意志で道を拓く」これがプロフェッショナルとして譲れないことであり、私の流儀である。

最近、不動産鑑定士がプロフェッショナルとして多くの人々に知られるようになった新たな活動について少し触れてみたい。

私達不動産鑑定士は、昨今多発している災害時において、罹災証明書の発行に必要な住家被害認定調査等をはじめとした被災地・被災者支援活動に日本不動産鑑定士協会連合会、地域不動産鑑定士協会連合会及び都道府県不動産鑑定士協会が一丸となって取り組んでいる。3年前の平成28年熊本地震での阿蘇郡南阿蘇村における支援活動からはじまり、去年は、大阪北部地震での大阪府茨木市、平成30年7月豪雨での愛媛県宇和島市、広島県安芸郡坂町、同県安芸郡海田町、岡山県小田郡矢掛町、福岡県久留米市、平成30年北海道胆振東部地震での北広島市、沙流郡日高町、勇払郡厚真町、勇払郡むかわ町における支援活動に全国の不動産鑑定士が奔走し、今年も、令和元年8月九州北部豪雨での佐賀県杵島郡大町町、小城市、令和元年台風15号での東京都大島町、新島村、神津島村等において支援活動を行っている。

最近の災害は激甚化・広域化しており、被災が大きい地域においては国民生活や経済活動が損なわれ、生活再建や復旧・復興に向けた大変な苦境に立たされる。プロフェッショナルは、このような時にこそ、しっかりと自らの知見を活かして社会的使命を果たさなければならないと考えている。

私は不動産鑑定士が「不動産の価値判断ができる専門家・実務家」として、そして、「有事の時こそ役に立つ専門家」として、国民の役に立てるように全力で取り組まなければならないという強い意志と矜持を持ち、不動産鑑定士という生き方を全うしたいと思う。

